第1章 練馬区の現況と課題

練馬の人口予測

• 人口の4人に1人が高齢者に

強み

- 23区一の緑被率
- 多面的機能を発揮する都市農地
- 戸建て住宅を中心とした良好な住宅都市

- 西部地域を中心とする都市基盤施設の整備
- 商店街等の産業規模の縮小傾向
- 代表的な商業集積地(拠点)の少なさ

機会(予想されているインフラ整備)

- 都営地下鉄大江戸線の延伸
- 外環の2などの都市計画道路の整備
- 西武新宿線の立体化
- 練馬城址公園などの大規模公園の整備

課題

- 緑の減少
- 生産緑地の2022年問題 農地の減少
- 都市間競争の激化(住宅都市としての競争相 手は、東京西部から東京東部、多摩エリア、リ ニア通勤圏まで拡大)
- 公共施設の維持・管理の負担増加

第2章 まちの将来像を検討するうえ での視点

委員のプレゼンテーションなどの内容から5つの テーマに分けて検討に生かすべき視点をまとめた。

1)まちづくり(住宅地・地域単位・拠点等)

- 区内にいくつかの基本となる拠点を形成する方
- 住みながら働くライフスタイルが練馬区に広がる 可能性がある。

2)交通

- まずは幹線道路を整備すべき。今後は生活道 路が大事。
- 道路に、文化的な出し物、大道芸や演奏できる スペースがあると良い。

3)環境

• 練馬区のような住宅都市でも、拠点ではエネル ギー需要の平準化などの有効利用が可能。

4)みどり

• みどりの「恵み」をいかに人々に対して「見える 化して、質的に拡充できるかが重要。

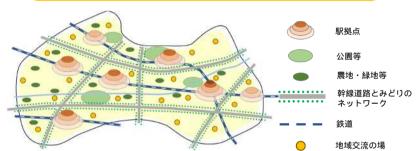
5)暮らし

- 練馬区では、小地域(人口1万人程度)に分割し て活動の拠点を設けるべき。
- 商店会モ役割を担って、行政につなげられると いうシステムがあっても良い。 など

第3章 日指すべき都市像

みどり豊かな環境の中で誰もが 安全・快適に暮らし続けられる生活都市

駅を中心とした拠点、良質な住環境、環状・放射方向に整備さ れた幹線道路、都市農地や屋敷林、緑地など、東京都の「都市 づくりのグランドデザイン」に示される「新都市生活創造域」 のモデルとも言える練馬区の特性を活かし、都市の利便性とみ どり豊かな環境を兼ね備えた、多様なライフスタイルや新たな 価値を生み出す生活の場となるまちの実現を目指します。



円滑な移動を支える道路ネットワーク(幹線道路網)

地域の拠点(鉄道と駅)

水とみどりのネットワーク

日常生活を支える単位(生活圏)

イメージ 1

住宅と農地が共存するまち の中で農の魅力があふれ る都市





イメージ2

豊かなみどりを備えた幹線 道路が人々の安全と健康を 支える都市





利便性と魅力に溢れた駅周 辺と快適に暮らせる住宅地を 備えた都市





イメージ4

豊かな自然の中で多様な 活動を楽しめる場が広がる





第4章 実現に向けた取組の方向性

イメージ 1

住宅と農地が共 存するまちの中 で農の魅力があ ふれる都市

「恵み」や「楽しみ」をもたらす、練馬のアイデンティ ティーである都市農地を保全する。

都市農地が持つ多面的な機能(防災、環境、生物多様性、 景観、食)を発信する。

都市農業とのふれあいの場(果樹あるファームの設置支援、 体験農園の整備、農家レストランの開設支援)を作る。 未利用地の農地への転換等、農地を増やす仕組みを構築す など る。

イメージ2

豊かなみどりを 備えた幹線道路 が人々の安全と 健康を支える都 道路整備を推進し、幹線道路ネットワークを形成する。 人や車、自転車等が安全・快適に移動できる道路を整備す

少子高齢化や技術革新等を視野に入れ、きめ細かなで 定 時制の確保された公共交通システムを構築する。

多様な交通手段を想定し、道路空間(幅員)を整備する。 ユニバーサルデザインに配慮して、歩行空間を整備する。

など

利便性と魅力に 溢れた駅周辺と 快適に暮らせる 住宅地を備えた

(駅周辺)

- バリアフリーにも対応した利用しやすい駅前広場の整備 やアクセス道路の整備等、交通結節機能の向上を図る。 (住宅地)
- 区民の生活圏内に区民の公的サービス等に関わる相談機 能を充実する。
- 空き家や公園等を活用し、人々が交流し、活動する場を 設置する。 など

イメージ4

豊かな自然の中 で多様な活動を 楽しめる場が広 がる都市

河川や公園緑地、道路整備と連動して線状に整備される 緑を骨格的な都市の基盤「グリーンインフラ」として位 置づけ、整備を進める。

地域のみどりのシンボルである憩いの森を保全する。 石神井川や白子川の親水性を高め、みどりと水にふれあ える空間を形成する。

生物生態系に配慮した形でみどりを保全する。

など